

# 芽生える 思い

出会い

しい驚きと真剣に向き合う子ども同士の交流。そこには、多くの出会いと別れや芽生えた夢を追う純粋な子どもたちの未来がある――

12年目を迎える中学生の海外交流事業。異国の地で経験する全てが新鮮。異なる文化に触れることで、自らを俯瞰できる。また1つ、新



異国体験



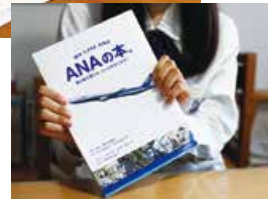
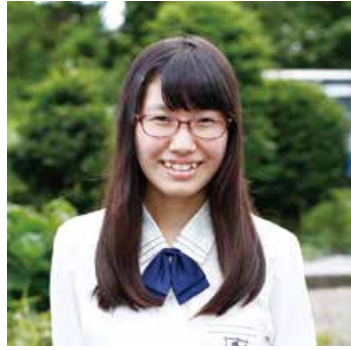
キ ヤビンアテンダント、それが石川真希さんの

夢。元々、文化や慣習が異なる外国人と接するのが好きな彼女は、平成25年度に海外派遣でリンツに行った。「流暢に英語が話せるわけではないので、最初は仲良くできない、最初は不安でした。でも5日間という短い間でも絆はできるものですね。パートナーのママに、あなたは私の大切な娘の1人、って言われて、別れるときは涙が止まりませんでした」と話しながら、思い出の品を見せてくれた。「パートナーが送ってくれた洋服です。外国の人は記念日をとて大事にしている、誕生日やクリスマスなどにプレゼントを送り合います。今

頃元気にしてるかな」と続ける。

現在高校2年生の彼女は、海外交流の楽しさを再び体験したいと、1年のときにアメリカへのホームステイに参加した。「外国の方はストレートに考えや思いを言い合います。日本では、言わなくても察する文化がありますが、生活していて言葉にしないと伝わらないことって結構ありますよね。誤解を生む場面もあるの、時には、言葉にする勇氣も必要なんだと感じました」と話す。夢実現のため、勉学に励む石川さん。空を眺めながら将来の夢を話す彼女の横顔に、力強さを感じた。

石川 真希 さん  
(平成25年度海外派遣研修参加者)



## さようなら 決して 忘れないよ

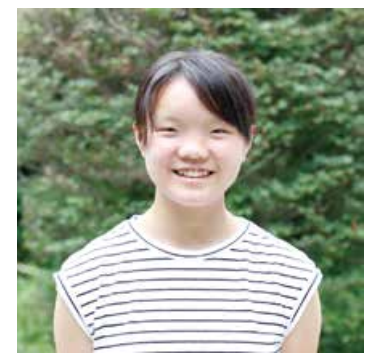


これまでいくつの出会いと別れがあったらう。いくつの驚きと発見があったらう。「異」を知り、互いを認めてこそ成長し合える。あのとき生まれた絆が、まちの明るい未来につながっていく――

別れ

## 必要だと思うから学びたい そのためにカナダへ

白石 萌絵 さん  
(平成26年度海外派遣研修参加者)



「文 化的な街並みの美しさが想像以上でした。一昨年に参加した海外派遣研修で、リンツでの思い出を振り返る白石萌絵さん。「少し苦手な食事もあったけど、それもまた新鮮。なによりホストファミリーの温かさ

に感動です。休日は毎回のよう



パートナーにプレゼントしてもらった写真立てと思い出の1枚

しかけることに後ろ向きだったけど、語学を学ぶにつれてその抵抗がなくなりました。実際に他国に行つて、文化や人に触れるのも必要な経験だと思えます」と、リンツのパートナーとの写真を眺める。「バイト先の飲食店にも日本語が話せない外国人客がよく来るので、英語が話せるとうれい」と付け加えた。外国人と接する機会は今後ますます増えるだろう。彼女は8月から3年間、カナダに留学する。「きっかけは父の勧め。でもこれからは語学が必要時代だと思つたので、自分の将来のために英語を学びたい。宇宙関係の仕事に興味があるので、きっと役に立つ」と話してくれた。

Moe Shiraishi